

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 033	提案機関名 県西地域県政総合センター
要望問題名	豚、牛へのエコフィード等地域資源の給与が肉質に及ぼす影響
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】	県では、飼料高騰、資源循環の観点からエコフィードの利用を推進しており、養豚、肉用牛を中心に生産現場でもその利用や利用意欲は拡大している。一方で飼料が変わることにより、生産性や肉質にどのような影響があるのかという不安の声も聞かれる。 県内には自らブランドを立ち上げ、直売施設等で販売を行っている養豚、肉用牛農家が多く、肉質、特に脂肪酸組成に対する関心が高い。 そこで、エコフィード等地域資源の給与が、生産性や肉質、特に脂肪酸組成に与える影響を明らかにしていただきたい。
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 地域資源の肉用牛への飼料化技術の確立 試験研究成績書(平成28年度) 地域資源を活用した豚肉の生産方法の検討 試験研究成績書(平成19年度～29年度) 肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発(令和5年度～8年度)		
対応の内容等	畜産技術センターでは、令和5年度より飼料費と温室効果ガスの発生を低減するために、エコフィードを活用した肥育牛の飼養管理技術について試験を開始しています。また、各々の経営体で利用するエコフィードや飼料への混合方法等については経営状況に合わせ現地対応します。なお、新たな地域資源については、県と関係団体等で構成するエコフィードネットワーク分科会と連携して成分分析や嗜好性調査を行い、必要に応じ給与試験等を実施していきます。 エコフィード等の地域資源に関する情報は、中央畜産会のホームページで、全国のエコフィードの取組事例や試験研究機関等で実施された飼料化試験の情報(成分や給与効果等)が公表されていますのでご利用ください。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	中央畜産会「エコフィード情報のページ」： http://ecofeed.lin.gr.jp/		